

山形大学校友会専門委員会（第19回）議事録

平成28年1月27日（水）
13時30分～15時15分
山形大学事務局役員会議室

（議題）

- 1 大学院学生表彰者（校友会長賞）の決定について
- 2 平成27年度事業の進捗状況について
- 3 平成28年度事業について
- 4 校友会事業運営等に現役学生を参加させる方策について
- 5 その他
 - (1) 校友会設立10周年記念事業について
 - (2) 「山形大学卒業生の皆さまへのアンケート」の集計結果について
 - (3) 校友会メールマガジンの配信状況について
 - (4) 「第1回山形大学若手卒業生の会（同窓会）」の開催報告について
 - (5) 平成27年度山形大学OB & OGセミナーの開催について
 - (6) その他

（出席者）

委員長：長沼龍平

委員：丹野憲昭、齋藤博行、大場好弘、竹田隆一、神戸士郎、佐藤和佳子

（欠席者）

なし

（列席者）

小関エンrollment・マネジメント部長、鈴木EM企画課長、
大沼校友会事務局長、山口校友会事務局次長、渡部係員

議事に先立ち、長沼委員長から挨拶があり、委員の紹介があった。

1 大学院学生表彰者（校友会長賞）の決定について

委員長から本件について提案があり、大学院学生表彰の推薦状況や被表彰者の決定までの手順等について資料1-1及び参考資料3に基づき概ね次のような説明があった。

（内容）

- (1) 資料1-1は、関係する研究科長から推薦のあった候補者14名を推薦者一覧としてまとめたものである。
- (2) 大学院学生に係る推薦書（推薦理由を含む。）は、整理番号1～14のとおりである。
- (3) 「大学院学生表彰に関する申し合わせ」の規定により、被表彰者は本専門委員会の議を経て決定される。
- (4) 推薦のあった大学院学生の研究業績等については、あらかじめ神戸、佐藤の両委員に説明をお願いしている。

次いで、神戸委員から大学院理工学研究科学生9名（理学系2名及び工学系7名）、佐藤委員から医学系研究科学生5名の候補者の研究内容や主な受賞歴等について、研究科内の審議結果を含めた詳細な説明があった。

説明の後、概ね次のような意見、要望等があった。

- 授賞される大学院学生表彰者数に上限はあるのか。(丹野委員)
- 特に決まってはいるが、予算枠を超える推薦があった場合には何らかの方法を考えなければならない。(事務局)
- 推薦者一覧の「受賞歴等」の欄に掲載された論文のテーマを記載するなど、審議資料に候補者の研究課題がわかる情報を記載いただきたい。(齋藤委員)
- 審議資料上で研究テーマ等がわかるよう工夫したい。(事務局)
- 現在の表彰基準では、芸術系や体育系分野の大学院学生は推薦の対象外となってしまうようなので、検討してほしい。(竹田委員)

種々審議の結果、委員長から、推薦のあった候補者の 14 名は表彰基準のいずれかに該当していると判断されるので、全員を大学院学生表彰者として決定したい旨提案があり、承認された。

なお、表彰は「山形大学校友会会長賞」として、資料 1-2 の表彰状と奨励記念品（金 5 万円）を贈呈することとした。

また、事務局から、表彰状授与式は 2 月 19 日開催の校友会理事会終了後に執り行う旨説明があった。

2 平成 27 年度事業の進捗状況について

委員長から本件について提案があり、事務局から、「平成 27 年度実施事業進捗状況一覧」、「事業実施報告書及び事業進捗状況報告書」、「平成 27 年度収支決算見込み」について資料 2-1、資料 2-2 及び資料 3 に基づき概ね次のような説明があった。

(内容)

- (1) 平成 27 年度事業は継続 19 件及び新規 10 件の計 29 件で、予備費を含めた事業費総予算額は 23,220 千円となっていた。
- (2) 資料 2-1 は各事業の進捗状況についてまとめたものであるが、現時点ですでに終了した事業が 11 件で事業継続中が 17 件、未実施の事業が 1 件である。
- (3) 前回の校友会理事会(27.6.24 開催)での決定に基づき、「博士課程学生研究発表奨励事業」の大学院医学系研究科分として予備費から 30 万円を計上している。
- (4) 平成 27 年度の収支決算見込みは資料 3 のとおりであるが、収入は新規加入者が予定より多かったこと等により全体で 26 万円程の増、支出のうち事業費は、今後の支出見込みを踏まえ 20,279 千円程の決算が見込まれている。

引き続き、事務局から、資料 2-1 に基づき、実施済みの 11 件を中心にそれぞれの事業の実施状況及び資料 3 に基づく収支決算見込みについて順次説明があった後、若干の質疑応答があった。

次いで、委員長から、本件について現時点における各事業の進捗状況及び収支決算見込みとして 2 月 19 日開催の理事会に報告したい旨提案があり、了承された。

3 平成 28 年度事業について

委員長から本件について提案があり、事務局から、「平成 28 年度予算概要（イメージ）」、「山形大学校友会事業の検討に当たって（基本方針案）」及び「平成 28 年度山形大学校友会事業計画書」について資料 4、資料 5 及び資料 6 に基づき概ね次のような説明があった。

(内容)

- (1) 平成 27 年度の決算見込みを踏まえた平成 28 年度予算概要(イメージ)は資料 4 のとおりである。今年度からの繰越額減に伴って 400 万円程の収入減となり、平成 28 年度に実施する校友会 10 周年記念事業経費 300 万円を含む事業費として 23,000 千円程度を確保すれば、平成 29 年度の繰越額は 400 万円弱となる見込みである。
- (2) 平成 28 年度の校友会事業を検討するに当たり、理事会や本委員会でのこれまでの審議等も踏まえ、基本方針案を資料 5 のとおり策定した。
- (3) 平成 27 年度事業 29 件のうち、資料 5 の別紙に記載の 26 件については、その実施状況を踏まえて平成 28 年度の継続事業としての優位性を認めることについて本委員会において審議願いたい。
- (4) 事業の自己評価システムを導入することとし、事務的にはあまり負担とならないよう配慮する方向で工夫したい。
- (5) なお、「平成 28 年度山形大学校友会事業計画書」の申請様式は資料 6 のとおりとし、平成 28 年 3 月 31 日(木)を提出期限としたい。

種々審議の結果、委員長から本件について諮られた結果、次のとおり了承され、関係資料を整理の上、2 月 19 日開催の理事会へ提案することになった。

- (1) 資料 5 「山形大学校友会事業の検討に当たって(基本方針案)」は専門委員会として了承し、自己評価については内容を一部見直しの上、理事会に提案する。
- (2) 資料 5 別紙に掲げる 26 件の事業は平成 28 年度の「継続事業」としての優位性を認めるものとし、採択金額については実績等を精査して計上する。

～平成28年度の継続事業としての優位性を認める26事業～

(修学関係)

- 1 大学間交流協定大学への短期派遣留学生校友会支援事業(4年目)
- 2 グローバル化に向けた授業への修学支援(4年目)
- 3 博士課程学生への研究発表奨励事業(4年目)
- 4 校友会推薦図書コーナー「後輩に是非、こんな本を読ませたい!」(3年目)
- 5 実践教育プログラム合宿型交流ワークショップ(3年目)
- 6 山形大学実践教育プログラム 長期インターンシップの実施等(3年目)
- 7 山形大学校友会大学院学生表彰制度(3年目) (★:校友会の主体事業)
- 8 新興国学生大使派遣プログラム(2年目)
- 9 卒業生の「人財バンク登録事業」を活用した学生支援事業(2年目)
- 10 校友会会員となった新入生への入会記念品の贈呈(2年目) (★:校友会の主体事業)
- 11 首都圏就職活動時のセカンドキャンパスの整備(2年目)

(課外活動関係)

- 1 ビーチサッカー大会 in 庄内(5年目)
- 2 各キャンパス大学祭への支援(4年目)
- 3 公認サークルへの支援(4年目)
- 4 山形大学雪合戦大会(3年目)
- 5 高齢化率の高い離島における継続した東日本大震災復興支援事業(3年目)
- 6 科学で東北盛り上げ隊への支援(2年目)
- 7 山形大学駅伝大会(2年目)

(就職関係)

- 1 首都圏開催合同企業説明会への参加と東京サテライト案内(4年目)
- 2 学生中心に行う優良企業訪問への支援(2年目)

(保護者、本学運営、同窓会等関係)

- 1 卒業生等による学生支援体制の整備（5年目）（★：校友会の主体事業）
- 2 新入生保護者の皆さまと山形大学との交流会（4年目）
- 3 山形大学卒業生講演会（4年目）（★：校友会の主体事業）
- 4 オペラを核とした《附属校との協働》及び《高大連携事業》の推進（3年目）
- 5 山形大学東京サテライト 卒業・修了制作展（3年目）
- 6 若手卒業生の組織化支援（2年目）（★：校友会の主体事業）

4 校友会事業運営等に現役学生を参加させる方策について

委員長から本件について提案があり、事務局から、資料 7「校友会事業運営等に現役学生を参加させる方策（検討資料）」に基づき概ね次のような説明があった。

(内容)

- (1) 資料 7 は、校友会事業運営等に現役学生を参加させる方策についての現状と課題について整理したものである。
- (2) 校友会の会費は保護者等が払っているケースがほとんどであり、学生自身が校友会の会員であるという認識が薄いのではないか。
- (3) 全学的な学生支援を大きな柱とする校友会にとっては、学生に知名度を上げることも課題の一つである。
- (4) 校友会理事に学生の理事はいないので、校友会の会員である学生の声をもっと反映できる仕組みが必要ではないか。
- (5) 「学生部会(仮称)」のような組織を作り、幅広く学生の意見や要望を聞くことも考えられる。
- (6) 当面は、学生の代表をどのように選出するか等を含め、さまざまな問題点を整理することが必要であろう。

説明の後、委員長から本件について自由なご意見を伺いたい旨述べられ、概ね次のような意見等があった。

- 入学直後に学部から学生代表を選出できないか。年に 1 回程度学生代表者に集まってもらい、校友会事業を説明する機会を作るようなことはできないのか。
(齋藤委員)
- 確かに、入学後の早い段階から学生のリーダーを作ることはたくましい実践力のある学生の育成にも繋がることである。若手の卒業生の声を聞いても、求めている価値観が違ってきている。(大場委員)
- ふすま同窓会では、学部長推薦で学年幹事 2 名を推薦いただいている。
(長沼委員)
- 入学式直後において、校友会をアピールすることはできないのか。
理学部では、入学式直後の保護者会において「理学部後援会」を説明する機会を作ってもらっている。(丹野委員)
- 今のところ、校友会はそのような説明の機会はない。
山大合格が決まった段階で、入会案内の送付を行い、入学式当日には校友会会報、入会記念キーホルダー等を差し上げている。(事務局)
- 毎年 2 月に米沢で実施する雪合戦大会では、学生による実行委員会を組織し、先輩と後輩の学生が中心となり当該事業を運営しており、そういう関わり方もあるのではないか。(神戸委員)
- 校友会と各同窓会との関係性や学生との係わりについて、もう少し整理しておく必要があるのではないか。(佐藤委員)

種々審議の結果、委員長から、本件については本日いただいた意見等も踏まえて問題点等を整理し、2月19日開催の理事会においてさらに意見等を伺うこととした旨提案があり、了承された。

5 その他

委員長から、その他として次の5項目について報告したい旨発言があり、順次、事務局から説明があった。

(1) 校友会設立10周年記念事業について

本件について事務局から概ね次のような説明があり、次回の理事会に報告することとした。

- ① 記念事業を円滑に実施するため「実施委員会」を新たに組織し、その委員はこれまで記念事業の企画を検討いただいた企画検討ワーキング委員全員にお願いした。
- ② 会長は小山清人学長にお願いした。
- ③ 実施委員会の委員長は大場好弘理事・副学長、副委員長は長沼龍平ふすま同窓会長にお願いした。
- ④ 記念講演会の講師には上田準二氏（〈山形大学文理学部卒〉ファミリーマート代表取締役会長・山形大学経営協議会委員）に内諾をいただいた。

(2) 「山形大学卒業生の皆さまへのアンケート」の集計結果について

本件について事務局から概ね次のような説明があり、次回の理事会に報告することとした。

- ① 今年度、同窓会支部総会等において卒業生の皆さまにアンケートに協力願い、現時点で223人の卒業生から提出いただいた。
- ② 資料8は、アンケートの項目毎に結果を集計したものである。
- ③ 大学で学んで良かったことは、多くの卒業生が「友人との出会い」や「大学での専門的な勉強」を挙げている。
- ④ 大学生時代に学習しておけば良かったとして、多くの卒業生が「外国語能力の必要性」を挙げている。

(3) 校友会メールマガジンの発信状況について

本件について事務局から概ね次のような説明があり、次回の理事会に報告することとした。

- ① 校友会メールマガジンは月1回のペースで発行し、本年1月15日発行分で第19号を数えている。（メルマガの内容は資料9参照）
- ② 校友会メルマガの配信登録者数は、昨年同期と比べ1,000人以上の増となっている。
- ③ 小白川3学部の1年生（希望者）にも、昨年10月から校友会メルマガの配信を開始している。
- ④ 昨年10月、校友会Webサイトに配信登録申し込みフォームを新たに設定し、メルマガの新規登録、解除等が容易にできるようになった。

(4)「第1回山形大学若手卒業生の会(同窓会)」の開催報告について

本件について事務局から概ね次のような説明があり、次回の理事会に報告することとした。

- ① 昨年12月19日(土)に山形大学東京サテライトにおいて、卒業生16名の参加を得て「第1回若手卒業生の会(同窓会)」を開催した。
- ② 参加者は午前中に山形大学の栗野武文講師による授業(ワークショップ)を受講するとともに、次年度以降の本会の持ち方等について打ち合わせも行った。
- ③ 当日の午後には、「山形大学卒業生等首都圏ネットワーク総会」にも参加し、代表者が会の様子を報告するとともに、合同懇親会にも参加し、若手と先輩卒業生とが親しく懇談した。
- ④ 参加した若手の卒業生全員から、参加して良かったとの感想が寄せられた。

(5)平成27年度山形大学OB&OGセミナーの開催について

本件について事務局から概ね次のような説明があり、次回の理事会に報告することとした。

- ① 今年度のOB & OGセミナーは資料11のとおり詳細が決定し、参加者の募集を開始した。
前年度のアンケート結果も踏まえ、今回は“映画”と“健康”に関わる講演会を企画した。
- ② 講師には、深尾、阿部の両理事・副学長にお願いしている。

(6)その他

特になし

配付資料一覧

- 山形大学校友会専門委員会(第19回)次第
- 山形大学校友会専門委員会委員一覧(H28.1.27現在)

[資料一覧]

- 資料1-1 山形大学校友会大学院学生表彰推薦者一覧(平成27年度)
- 資料1-2 表彰状案(山形大学校友会会長賞)
- 資料2-1 平成27年度事業の進捗状況一覧
- 資料2-2 平成27年度事業の進捗状況報告書
- 資料3 平成27年度収支決算見込み
- 資料4 平成28年度予算概要(イメージ)
- 資料5 山形大学校友会事業の検討に当たって(基本方針案)
- 資料6 平成28年度校友会支援事業の申請書様式(案)
- 資料7 校友会事業運営等に現役学生を参加させる方策(検討資料)
- 資料8 「卒業生の皆さまへのアンケート」の集計結果
- 資料9 校友会メールマガジン「みどり樹通信」の配信状況
- 資料10 「第1回山形大学若手卒業生の会(同窓会)」の開催報告
- 資料11 平成27年度山形大学OB&OGセミナーの開催案内

[参考資料]

- 1 山形大学校友会会則
- 2 山形大学校友会専門委員会規程
- 3 山形大学大学院校友会大学院学生表彰に関する申し合わせ
- 4 校友会専門委員会第17回（H27.5.28）議事録
- 5 校友会専門委員会第18回（前回）（H27.6.24）議事録
- 6 校友会理事会第18回（前回）議事録（H27.6.24）